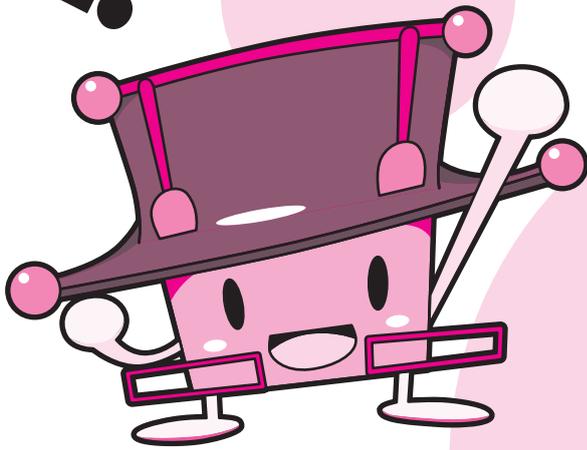


沙羅林

お寺を
もっと
元気な！



オウム裁判をニュースで目にする時、オウム信者が事件後に語った「日本のお寺は風景でしかなかった」という言葉を思い出します。宗教を求める人が居るにも関わらず、私たちが活動しているお寺は風景としか映っていなかったのでしょうか。

今号から、『しゃらりん』をリニューアルしてお届けすることになりました。随分と以前から「お寺離れ」という言葉を耳にすることがあります。確かに、お寺の法座等が集まる人が少なくなっているという現状は否めません。しかし、それはお寺から人が離れているのでしょうか？それともお寺が人から離れているのでしょうか？

大阪教区には660ヶ寺程のお寺が活動しています。たくさんのご門徒が集い盛んに活動していただけるお寺もあります。また、何かしたいけど、どうしていいのかわからないという悩みを抱えている若い住職さん達もいます。他のお寺がどんな活動をしてもらえるのかわかれば、「これなら、うちのお寺でも出来る」「そういう風にやってみよう」と、教化活動を分かち合うことにすることでお寺はもっと元気になるのではないのでしょうか。

『しゃらりん』は、お寺をもっと元気に、というスローガンを掲げて、お寺の活動を紹介したり、素朴な疑問を取り上げて見たりと、一ヶ寺一ヶ寺のお寺の活性化と一人ひとりのご門徒へ届く教化にスポットを当てた誌面作りを考えています。風景と言われていたお寺から、発信するお寺へと変わって行くことを願って。

(廣瀬 俊)

お寺を 元気にもっと

掲示板を出そう！

新企画「お寺をもっと元気に！」は、お寺に役立つさまざまな情報を紹介していくコーナーです。記念すべき第1弾は、難波別院の掲示板の配布サービス。ブットンくん2号と難波明則さん(第9組浄園寺)にモデルになっていただいて、掲示板をお寺に貼り出すまでを写真で紹介いたします！



まずは難波別院前で掲示板をチエック。今月は榎本栄一さんのお言葉でした。

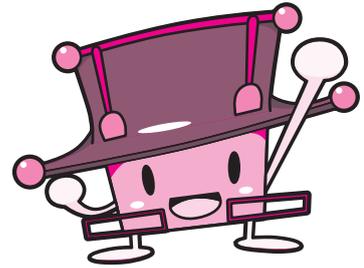


右手の同朋会館を2階に上がり少し奥に行くと、カウンターに掲示板をプリントアウトしたものがたくさん置いてあるのを発見！

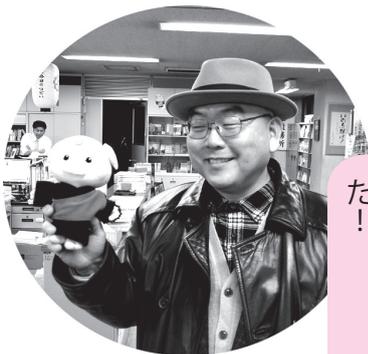


声をかけるとイケメンの職員さん(ただしつねにイケメンとは限らず)が、渡してくださいました。サイズはA2で縦と横があります。自坊の掲示板に合ったものを選びましょう。

さっそく自坊へ
帰って掲示板に貼
り出します。



通りがかった門徒さんにお言
葉の説明をするご住職。
このお言葉の味わいを短い文
章にしたものも、別院で配布し
ていただいております。それも
参考にいたしましょう。



最後に1号
とツーショット。
モデルになって
いただいた難波
さん、ありがと
うございました！



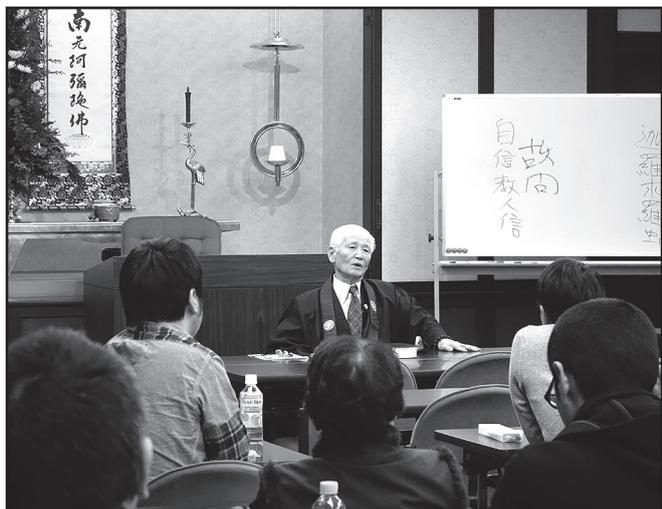
もちろんオリジナルの掲示板の言
葉を考え、掲示することも大事なので
すが、掲示伝道の第一歩として、みな
さんもぜひ、この難波別院の「今月の
言葉」を利用してはじめてみませんか。

教区教化委員会から

同朋の会推進実行委員会について

2013年度から第3期推進員養成講座が開設されるにあたり、「研修・講座部」では第2期推進員養成講座の総括を行いました。講座実施時の講師・組長・教区スタッフ、また第2期中に実施がなかった組の組長等が集まっていたいただき、様々なご意見・ご批判をいただきました。それを踏まえてより積極的かつ強力に推進員養成講座を押し進めるべく、従来の「推進員養成講座実行委員会」を発展的に改め「同朋の会推進実行委員会」を発足させることになりました。

よくよく考えてみますと元来、推進員養成講座は「一ヶ寺



に一同朋の会発足」を目指した本山の施策であって、養成講座を修了することが最終目的ではないはずです。あくまでも各寺院に同朋の会が発足し、それが充実し、その中から「人の誕生」がなされていくことが願われているのです。そこで大阪教区教化委員会の基本課題の一つにもあります「同朋の会・聞法会の発足推進」を受けて、より一層、同朋の会推進を目ざしたものとすべく「同朋の会推進実行委員会」と名称を改めました。

当実行委員会の事業としては、まず同朋会運動の源流を訪ねるべく、同朋会運動発足当時から関わっておられる伊藤

元先生（日豊教区・徳蓮寺）から講義をいただきました。また養成講座の中心ともいえる座談の実践を行います。これは上記総括の中で多くあった、「座談会を行うのが非常に困難である」ということからです。よってそれを克服すべく座談についての講義も開催する予定です。

今後は、実行委員

同士で懇談会を開き、自身が寺院に身を置く中での問題点や課題点を話し合い、その問題点をどう打開していくのか協議する場を設ける予定です。また個人的には実際に実行委員で本廟奉仕団に行くことも考えています。

同朋会運動53年目の歩みだしになります。当実行委員会が大阪教区の同朋会運動を背負っていけるような委員会になり、ひいては全国を牽引していくような活動になることを願っています。

（研修・講座部 藤政朋宏）

今後の予定

4月9日（水）

「死と葬送」寺院・僧侶に求められていること」 第一生命研究所主任研究員・小谷みどり氏

5月14日（水）

「同朋会館の現場より（仮題）」 同朋会館研修部補導主任・木名瀬 勝氏

5月29日（木）

「カウンセリングの現場より（仮題）」 岐阜聖徳学園大学教育学部教授・讓 西賢氏

※同朋の会推進実行委員会対象講座は、実行委員のみが聴講の対象となります。聴講を希望される方は、ぜひ実行委員に自薦ください。



庫裡の中から

二階堂正子さん（第8組光遍寺）



「お寺って大変でしょ。がんばってくださいね」とよく言われます。「いえいえ、皆さんと変わりありませんよ。お寺はいい所ですよ」と今なら思いますが、2年半前に嫁いだ頃の私ならこのように言えなかったように思います。

嫁いだ当初は、驚くことばかりでした。まず、仏教用語というのでしょうか、お寺さんしか使わない言葉が住職と義母の会話にでてきて、おまけにテンポの早い独特の大阪弁？（NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」で出てくるような）が、島根出身の私には理解できず……。きつく聞こえるし聞き間違えるし、なんか取り残されたような気が

がして孤独を感じたものです。

それより感激したこと
は、お寺の本堂です。男前の阿弥陀さんが見守るように立っておられました。こんな近くで見るとは初めてです。子ども

の頃にお寺に行ったことはありませんが、入ってはいけなと言われたような、内陣の記憶はありません。初めて見る名前のわからない仏具の大きさ。例えば、仏飯器や蠟燭。特に本山や別院の仏華は立派で、華瓶の何倍の高さもある華が立てられています。打敷も豪華でお寺って暗いイメージでしたが、華やかだなど思いました。次に目に入ったのが、外陣の壁。総代？寄進者？お寺の改修？お名前の札がたくさん「ご門徒さんがこんなに多額の……お寺のために……。びっくり！」私だったら出来るかな？ いや、ちょっと無理です。と正直思いました。お寺のために一生懸命してくださいさるご門徒さん、やっぱり阿弥陀さんってすごいんだな。と感激いたしました。

それから、すばらしい所は「難波別院」が身近にあることです。嫁ぐ前に映画の試写会で「南御堂」に行ったことはありますが「難波別院」は知りませんでした。

月に何回か法話や講座があり、「どなたでも参加できます」と書いてあるじゃないですか。普通に会社員していたら絶対に行く事もお参りすることもなかったと思います。本堂はすごくきれいで、お昼にはクラシック音楽が聴けて、優雅な気分になれます。宗教は関係なく、お友達も誘ってみよう！と思いました。

また、一般の方とは別に「寺族」のための講習会や勉強会もあって、なんてすばらしい環境が整っているんだと思いました。初めて勉強会に参加した時は、難しいことばや、読めない漢字も多く、わからないところを説明するにも言葉にできませんでした。今では、わからなくても声を出して読んでいます。学んだ後の座談を聞くだけでも勉強になります。日常の悩みや疑問を共に考え、わからないことがあって当たり前なのだと思ったり気が楽になりました。難波別院に行ったら聞法して教えてもらうことが、私の息抜きのある場であり、楽しみです。まだまだありますが、今日はこのくらいにしておきたいと思います。

今では、お寺の生活にも慣れ仏法に触れながら過ごせることに感謝しております。
合掌

私の一冊

紹介者

日下部真雄さん(第9組西方寺)



『緑の哲学 農業革命論』

―自然農法 一反百姓のすすめ―

著・福岡正信

春秋社／2013年



趣味で家庭菜園をしているのですが、「どうせ作るのなら、少しでも安全で美味しい野菜を」と思い立って、手当たり次第に読みあさっているうちに出会ったのがこの本なんです。「何もしない運動 人類の未来は今、何かを為すことによって解決するのではない。何もすることはなかったのである。否！してはならなかった。強いて言えば、何もしない

運動”をする以外にすることはなかった。今まで人類は多くのことを為してきたが、何を為し得ていたのでもなかった。一切は無用であった。この書は「何もしない運動」の一環である」という文章で始まるんですが、正直なところ、びっくりしてしまいました。農業実践者からの現代農業に対する警鐘というメインテーマにとどまらず、人としての生活の真の姿を示唆しておられるように感じ、一気に読んでしまいました。最近、『奇跡のりんご』という映画が公開され話題になっていますが、主人公の木村秋則さんという青森のりんご農家の方も、この本の著者である福岡正信氏の本に出会われて、完全無農薬のりんご栽培の道を歩まれたそうです。

紹介者

玉井久之さん(第11組遍照寺)

『それでも人生にイエスと言う』

著・V.Eフランクル

訳・山田邦男・松田美佳

春秋社／1993年

『それでも人生にイエスと言う』は、『夜と霧』で有名なフランクルが、ナチスの強制収容所から解放された翌年に行った3回の連続講演を収めたもので、「どんな人生にも意味がある」というフランクルの思想がコンパクトにまとめられています。

私たちは病気や事故の後遺症などのために、思わぬ人生を余儀なくされ、生きる意味を見失ってしまうことがあります。また、だれしも加齢により体が動かなくなり、寝たきりの状態になる人も少なくありません。その時に生きる意味を見いだせる人はどのくらいあるのでしょうか。

フランクルは、「人生から何を私たちは期待できるか」という問いから、「人生は何を私たちに期待しているか」という問いへの転換の必要性を説きます。つまり、私たちは人生から問われる存在で、その問

い、あるいは責任に答えようとする限り、どんな状況にあらうとも生きる意味は無限にあるというのです。

フランクルを読むと、ある80歳代の女性の方の話を思い出します。その方は衰え行く自分を悲観し、「こんな人生を生きていても仕方がない。早く死にたい」ときかんに言っていたそうです。しかしある人から「おばあちゃん、今死んでしまったら、小さいお孫さんはおばあちゃんの顔を覚えていないよ。お孫さんのためにも生きてあげないと」と励まされ、考えを変えたそうです。

フランクルの教えは、「寺族」にとって耳の痛い指摘であると同時に、重要なサジェスチョンです。今日、「寺族」は法務に意味と自信を見失いつつあるのではないのでしょうか。「こんなやつでも意味がない」「オレは関係ない」「こんなようやらん」などなど。確かに「寺族」には特有の人生の付託がありますが、それから逃げようとするのではなく、答えていこうとする態度が、人生に意味を与えるのでしょう。

しやらりん 情報局

「教区指定同朋の会」

について



寺院で講座をしたい、ご門徒と学ぶ場がほしい……でも、最初はどのようにしていいかわからない。そういうお悩みをお持ちのときは、ぜひ教務所までご相談ください。大阪教区教化委員会の「教区指定同朋の会」とい

う事業があります。

この事業は、推進員養成講座を終了された組や寺院を対象に「一ヶ寺一ヶ寺にご命日の集いを中心とした同朋の会を開いていただきたい」という主旨のもと、1996年から開設されており、毎年3〜5回程度の講座が開かれています。

この取り組みの特徴は、一ヶ寺に限らず、数ヶ寺単位や、組単位でもお申し込みいただけることにあります。期間は2年間、その間に最大10回の講座を開くことができます。ご講師は各組同朋の会教導（50名）から選定いただきますが、基本的なやりとりは教務所にて行います。

特に耳寄りな情報は、講師謝礼が教区から助成され、講義当日の座談会助言者として駐在（もしくは教務所員）もお手伝いさせていただくことです。

実施条件として推進員養成講座の終了組であること、そしてこの「指定同朋の会」の終了後も継続した実施を目指されることが挙げられますが、現在大阪教区内のほとんどの組は該当されています。この機会にぜひご検討ください。

総代と責任役員って どう違うの？

寺院・教会（以下、略して寺院といいますが）は、儀式執行の場、また聞法の道場としての目的で設立されています。

総代とは、こういった目的に沿った寺院活動全般に関して、その寺院の門徒を代表する役職をいいます。ですから寺院の活動は、住職・坊主などの「寺族」と総代が常に相談・協力しながら行われるべきものです。

では、責任役員とはどういう役職なのでしょう。寺院で宗教活動を行うにあたって、さまざまな法的行為を行うこともあるでしょう。たとえば、本堂を修復したいから、銀行から借入れを行うことなどがこれにあたります。このような場合に、個人ではなく、寺院として法的行為を行うためには、「宗教法人法」に基づいて、寺院が法人格を持つこと

が必要となります。

この宗教法人としての寺院の代表者が責任役員なのです。宗教法人法には、宗教法人に3人以上の責任役員を置く（うち1人は代表役員＝大谷派においては住職）ことが義務付けられています。

ただし、大谷派の寺院においては、さまざまな法的行為を行う際に、責任役員会の議決だけではなく、総代の同意を要するように規則に定められており、実質的には総代も寺院の法的行為に関わる仕組みになっています。実際の寺院運営の現場では、普段の寺院活動と法的行為が密接に関係し合っている場合が多いので、寺院運営上大切な事柄を協議する際には、総代と責任役員の両方が集まって協議することが望ましいでしょう。

なお、総代と責任役員はその性質の違いから、兼ねることはできません。また、それぞれ任期は3年間と定められています。（教務所／芳）



教務所 教えて！

しゃらりんちゃん

実録! 教区デビュー 編



やきとり 炭火

難波別院の西、ちょうど裏手にあるお店です。京都の鰻の寝床ではありませんが、細長い店内にはカウンター10席の奥にボックス12席があります。

カウンター席に座ると、まさに目の前でジュージュー炭火で焼いているのが見えます。

先付けの豆腐(奈良直送の燻製・ゆば・ナンキンのよせ)をつつきながらまずはビールで一杯。メインの地鶏(名古屋コーチン)は串や焼きはもちろん、お刺身も美味しい。串はお任せで5本ほど頂きました。締め「男の焼きおにぎり」。一辺20センチ×5センチの三角型の炊き込みご飯おにぎり。刻み海苔が天盛りにされて登場しました。メニューには「お一人でも」と書いてありますが……(汗)。お出汁もついているので、お茶漬けにも出来ます。

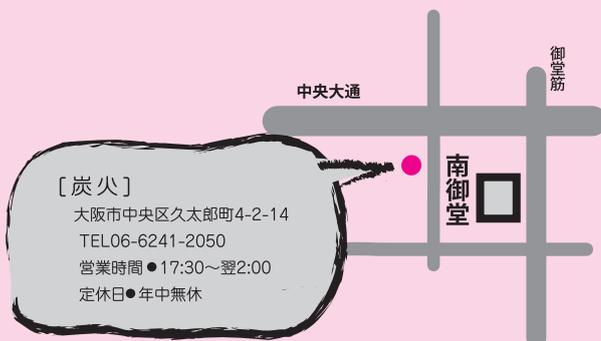


飲み物もビール・焼酎・地酒にワインと色々。予約なしでも当日OKな飲み放題付きのコースもあります。要予約ですが鍋コース(鳥しゃぶも)や地鶏を丸一羽使うコースも。

こだわりのサラダやデザートもあるので、女性にもお勧め。



■南御堂周辺のお店紹介



発行日: 2014年 3月 1日

発行所: 真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町 4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人: 宮浦一郎

- 編集:
- 第4組 常栄寺・久世見証
 - 第9組 浄園寺・難波美千子
 - 第10組 是三寺・北川浩三
 - 第12組 清澤寺・澤田 見
 - 第16組 即得寺・大戸俊彦
 - 第17組 法観寺・廣瀬 俊
 - 第25組 南林寺・藤林容子
 - 第27組 願隨寺・平野圭晋+萌
 - 第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/>

編集 後記

宗祖の御遠忌という大きな大きな行事を無事終え、やがて1年が経とうとしている。はたして私の中で何かが始まったのだろうか。そう自問してみる◆日々の忙しさに、ただただ毎日のやらなければいけないことをこなしている、そんなことで過ぎてしまったといまさらながら感じたことである。それは私個人はもちろん、教区全体としても同じ事が言えるような気がしている◆教区の教化体制の見直しが進んでいる。個人的にはそのキーワードは、教区と組・各寺院そしてその先にある個人へと、どう繋がっていきけるかだと思っている。それにはさまざまな情報を共有し、発信していける仕組みを作っていくことが大事になるだろう◆『しゃらりん』も情報共有の助けになれる、そんな誌面を目指して、これからもお届けしていきたい。(澤田)